

巨瀬川流域治水推進会議について

令和5年8月28日(月)
筑後川河川事務所

推進会議の目的（案）

令和5年7月の豪雨に対し、巨瀬川流域のあらゆる関係者が協働し、流域全体の水害、土砂災害等に対して、再度災害を防止し、強靱な地域づくりに向かうための方策について、関係者で議論し、流域治水対策（ハード対策、ソフト対策）を計画し、推進する。

推進会議構成組織

久留米市 副市長、総合政策部、総務部、農政部、都市建設部
田主丸総合支所、北野総合支所

うきは市 副市長、市長公室長、市民協働推進課、農林振興課、建設課

福岡県 総務部 防災危機管理局 防災企画課、消防防災指導課

福岡県 農林水産部 農山漁村振興課、農村森林整備課、林業振興課
朝倉農林事務所

福岡県 県土整備部 道路維持課、河川管理課、河川整備課、砂防課
久留米県土整備事務所

福岡県 建築都市部 都市計画課、建築指導課、下水道課

福岡県 教育庁 教育総務部 施設課

農林水産省 九州農政局 北部九州土地改良調査管理事務所

林野庁 九州森林管理局 福岡森林管理署

気象庁 福岡管区气象台

国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所

学識経験者 九州大学 名誉教授 小松 利光氏

事務局 国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所 流域治水企画室
福岡県 県土整備部 河川整備課

- ・ 目指すべき計画期間 短期 中長期
- ・ 水害・土砂災害の発生を防ぐべき目標となる降雨
- ・ 水害・土砂災害の被害対策の基本方針

流域のあらゆる関係者
(国、県、市、住民等)
の協働により推進

被害想定(浸水被害、土砂災害、農地災害)

被害をできるだけ減らす。生活基盤、重要資産(産業)を守る。

・ 浸水等被害をできるだけ防ぎ、減らすための対策

- ・ 河川改修
- ・ 流出抑制対策
遊水地・ダム有効活用
農業水路、田んぼダム
- ・ 内水被害対策
- ・ 治山、森林保全
- ・ 砂防関係施設の整備

・ 被害対象を減少させるための対策

- ・ 住まい方の対策、誘導等
- ・ 重要施設の対策
自治体施設、公共施設
病院・学校等施設
- ・ 農業施設の対策
- ・ まちづくり連携
砂防等事業の検討

・ 被害軽減、早期復旧のための対策

- ・ 防災対策の推進
避難基準
避難経路
避難地の確保
(浸水・土砂災害
双方を踏まえ)

・ グリーンインフラの取り組み

- ・ 農林業、環境の保全
森林、農地の保全
河川環境の保全

巨瀬川流域治水プロジェクト

～あらゆる関係者で協働し強靱な地域づくりに向かうため～

（背景）

- 令和5年7月は記録的豪雨となり、耳納山雨量観測所では、3、6、12、24時間雨量で観測史上最大雨量を記録、6時間という短時間で300mmの降雨量を記録。
- 巨瀬川 中央橋水位観測所 観測史上最高水位 3.49を記録。氾濫危険水位(2.54)を10時間30分超過。
- 巨瀬川流域は、広い範囲で内水被害発生、更には、巨瀬川で複数地点での越水被害が発生し、数多くの住宅、重要公共施設、優良農地、重要道路等で浸水被害。
- 耳納山麓では、多くの山地被害が発生、特に田主丸町竹野地区での土砂災害では、住宅が倒壊、人命が失われる被害を受けた。

（目標）

令和5年7月の豪雨に対し、巨瀬川流域のあらゆる関係者が協働し、流域全体の水害、土砂災害等に対して、再度災害を防止し、強靱な地域づくりに向かうための方策について、関係者で議論し、流域治水対策（ハード対策、ソフト対策）を計画し、推進する。

（大切にすべき視点）

- ①気候変動に伴う、豪雨災害の頻発化、激甚化を踏まえ、将来を見据えた対策に取り組む。
- ②巨瀬川流域の人々にとって、川と山と田畑は「暮らしを支える基盤」であり「守り引き継いでいきたいふるさと」である。次世代に引き継ぐ地域づくりとして、水害や土砂災害を受けても強く、しなやかに生活を再開できる地域づくりを目指す。

（対策の考え方）

- （川）巨瀬川の水を、安全に流す、氾濫水を減らす（様々な所で貯留、浸透、流出緩和）
- （山）耳納山麓の災害対応と将来の土砂流出被害を見据えた調査と計画、防災計画。
- （人里）浸水被害を増やさない。土地利用等（田畑、居住区、非居住区）

減災につながる生活の工夫。（作付けの工夫⇒蓮根とハウス、水に弱い機器は高いところに）

命を守る行動に向けた「丁寧な情報発信」と「安全な避難ルートと施設整備」

○想定される対策について、国、県、市等で協力する。

		項目		内容	想定される対策実施主体（案）				
					国	県	市町村	企業	住民
川とその周辺での水に対する対策	河川区域 集水域 での対策	安全に流す	河道の流下能力の向上	河床掘削、引堤、支川の整備等	○	○	○		
		氾濫水を減らす	貯留（河川水）	ダム・遊水地等の整備、有効活用	○	○	○		
			流出緩和	貯留施設、田んぼダム、ため池の高度利用		○	○	○	○
			浸透	雨水浸透施設（浸透ます等）整備、舗装を増やささない等の工夫		○	○	○	○
		山での対策	土砂災害・山地被害の対策（土砂の流出防止）	砂防ダム、地滑り対策、急傾斜地対策、治山事業、森林整備		○	○	○	○
土砂災害警戒区域の対応 森林管理	調査、計画、計画に基づいた取組				○	○	○	○	
人里での対策 田畑や町の中	氾濫域 での対策	浸水被害を増やさない土地利用等	浸水する土地を増やささない。	貯留機能を持つ土地を保全する。減らさない。（開発規制）		○	○	○	○
			治水機能を保全する	二線堤、自然堤防の保全	○	○	○	○	○
			浸水による影響を受けない暮らし。	安全な居住区に住む。（居住区の誘導、移転）		○	○	○	○
			浸水しても被害を受けない対策。	かさ上げ、ピロティ、止水対策		○	○	○	○
	減災につながる工夫	浸水しても被害を小さく	田畑作付の工夫		○	○	○	○	
			排水の工夫。ポンプ、角落し		○	○	○	○	
			低いところに高額資産（電気設備や機器など）を配置しない。		○	○	○	○	
	命を守る行動につながる対策	丁寧な防災情報	浸水しても生活が再開できる。	建物内の使い方の工夫。大切な物は高い所に。1F⇒2F			○	○	○
			確実にわかりやすい情報発信（情報発信と防災学習支援）		○	○	○	○	○
		確実に理解した情報受信（情報受信の工夫、防災学習）		○	○	○	○	○	
		確実に安全な、避難ルートと避難施設の確保		○	○	○	○	○	

巨瀬川流域プロジェクト（案）マップのイメージ

巨瀬川流域のあらゆる関係者が協働し、再度災害を防止し、さらに今後の豪雨災害の頻発化、激甚化を踏まえ、強くしなやかな地域づくりに向かうための方策

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

○河川区域での対策

○集水域での対策

■被害対象を減少させるための対策

○氾濫域での対策

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

○氾濫域での対策

巨瀬川流域治水プロジェクトマップイメージ

- ・土地利用の工夫
- ・貯留機能保全
- ・居住区誘導、かさ上げ、止水対策

- ・地域防災計画見直し
- ・防災教育の推進
- ・防災ルート
- ・防災拠点確保

堤防整備、河道掘削
樋管改築、橋梁架替

- ・貯留機能保全
- ・居住区誘導、止水対策

- ・田んぼダム
- ・水路の管理
事前排水
- ・ため池活用

（ダム有効活用）

遊水地整備

- ・田んぼダム
- ・水路の管理
事前排水
- ・ため池活用

砂防堰堤整備
森林整備

森林整備・保全

- ・地域防災計画見直し
- ・防災教育の推進
- ・防災ルート・防災拠点確保

早急に必要な個別の取組みは着手しながら、流域治水プロジェクトに反映

特定都市河川浸水被害対策法の活用についても丁寧に議論

